

麻生区PTA協議会

会長 臼井 庄吾



本年度は新型コロナウイルスの影響による経験したことのない環境下で、麻生区内の保護者の皆様も大きな不安を感じていることと思います。そんな折、私たち区P協の役員も、前年度役員からの引き継ぎが例年通りに出来ず、不安な思いの中、手探りで新年度をスタートしました。

新型コロナの感染拡大を避けるため、学校が休校になり、各単Pでは役員会も行えず、学校によっては運営委員の選出も出来ない状況でした。そのような状況下、まず、最初の取り組みとして、今年度初めて書面による総会を開催いたしました。書面総会は各単Pの役員の方々や会員の皆様のご協力もあり、スムーズに実施することが出来ました。次に各単Pにアンケートを行い、PTAの運営状況や問題点をヒアリングし、情報共有出来るようウェブ会議システムZoomによる運営委員会、会長会議、内副会議を開催いたしました。そして学校が再開し、マスクや消毒液、除菌グッズが不足する状況下、私たちに何が出来るかを考え、各学校への支援物資の配給を行いました。様々な事業が中止になる中、予算の見直しを行い、安全事業費を上積みしコロナ対策の費用として各単Pに援助しました。

また、新たな取り組みとしてZoomにて「座談会」を開催し、単P同士が意見交換出来る場を設けました。

私は区P協は各単Pの互助会的な組織だと考えていますので、少しでも単Pの役員の皆様の不安や負担を軽くすることが出来る様に、いろいろな取り組みを行っていききたいと思います。

引き続き、PTA会員の皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

多摩区PTA協議会

会長 木村 徹



新型コロナウイルスの影響で、昨年度の終わりから区P協の活動がほとんどできませんでした。例年行ってきた引き継ぎの場である新旧運営委員会が開催できず、そのまま新年度が始まってしまいました。7月に入ってようやく新年度の運営委員会が開催できましたが、今年度の活動をどうしたらよいか？というのが最初の議題でした。

多摩区P協では例年ですと、運営委員が中心となって校外生活指導委員会、成人教育委員会、広報委員会の3つの委員会活動が行われています。基本的に前年度までの活動内容を踏襲することが多く、内容の大幅な見直しをすることはありませんでした。良い活動であれば継続しなければなりません、今の時代に合わないものや単Pでもできる内容のものなどもあるのが現状です。

ちょうど市P協でも目的や活動内容の見直しを行っていましたので、区P協でも委員会活動に関して、合同会議（運営委員とPTA会長）の際に意見交換を行いました。それを元に次年度の活動案を役員で話し合っており、次回の運営委員会（令和3年1月11日）で提案・議論する予定です。またこのようなコロナ禍ですが、新たに各校PTA会長と多摩区選出市議会議員との意見交換会の場を持つことも始めました。

今後も区P協役員、運営委員、PTA会長、先生方とよく意見交換をしながら、区P協として何が出来るのか、どうしたら楽しく活動できるのか考えていきたいと思います。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

高校区PTA協議会

会長 白戸 哲郎



高校区PTA協議会は行政区のPTA協議会とは運営方法が違います。川崎市立高等学校の5校（川崎高校、川崎総合科学高校、幸高校、橘高校、高津高校）が毎年持ち回りで担当を務め、その担当校から協議会会長、副会長を選出しています。その協議会会長と副会長は市P協役員、理事を担当します。今年度は幸高校が担当しております。

高校区P協の主な活動は例年ですと総会、市P協バレーボール予選会、秋季研修会、引継ぎ会議。その他の活動としては、5校会長で情報交換を行う会議、各校学園祭に役員たちの訪問活動、高校合同芸術祭の手伝いなど行っていましたが、今年度はコロナウイルスの影響で活動はすべて中止となっています。

高校区P協メインのイベントは5校の交流を深めるための秋季研修会ですが、残念ながら中止となってしまいました。このコロナ禍の中でも感染対策を考え、参加者が楽しめるような何か違った方法でのイベント交流できないか現在模索中です。そもそも5校しかない区P協ですから、各校との交流は大切にしていきたいと考えています。

また会長会議ではこのような状況の中で、どのような活動が必要なのか、など各校の活動状況を話し合い、5校間で常に情報共有し、一丸となってこのコロナ禍を乗り越え、楽しいPTA活動が継続出来るよう話し合いを行っています。

このような状況ですが、お子さまが川崎市立の5校への進学をされた時には、保護者の皆さまと共にPTA活動が出来れば幸いです。

宮前区PTA協議会

会長 上村 和弘



宮前区では、昨年度（令和2年2月）の運営委員会から、「みんなでつくるPTA」というお題を掲げ、区P協の在り方を考える、「目的」に立ち返る、それ以前に「目的」について考えてみようというディスカッションを始めました。その矢先、COVID-19感染拡大の影響を受け、それ以降はみんなが一堂に会することなく年度を終えることになりました。

今年度のスタートもコロナ禍真っ最中… が、「ピンチはチャンス！って、なんのチャンスやねん！」と、「今」をポジティブに捉え、「区P協のことなんて何も知らない」という人が多いであろう、今年度初回から、何も知らないからこそ、「みんなでつくるPTA」を始めよう！と、ディスカッション中心の運営委員会を重ねてきました。

現在は、人間も一人一人違う、PTAも違っていい、PTAへの関わり方も、人それぞれ違っていいよね ということ、少しずつ受け止められるようになってきているのかもしれない。そのマインドを多くの人をもって、「いいことやってるじゃん！PTA」と見てもらえるようになったら最高！と思っています。

市P協も、今年度は同じ取り組みを行っていますので、「市P協らしさ」「区P協らしさ」を活かし、学校現場や子どもたちに直面している各校PTAを支援できたらいいな—と考えています。みなさんのご理解とご協力をお願いします！

あと、課題は「伝える」「伝わる」。誰が伝える？誰に伝える？どのように伝える？かなあ。

高津区PTA協議会

会長 河崎 基



今年度高津区PTA協議会は、コロナ禍で毎年続けていたイベントをすべて中止しました。

高津区内のPTA会員のみなさまのためのイベントが中止となることは大変心苦しいことでしたが、イベントが中止されたことでできた時間を使って、これまでほとんど考えることができていなかった高津区P協の存在意義や課題について考える時間を設けられたことは、1つの良い結果だと受け止めています。

ちょうど市P協でも活動の目的を考えているように、高津区P協でも今年度中に次年度以降の方針について見直すこととしています。

コロナ禍にて、リスクを考慮して何もしないというのは簡単です。でも、こんなときこそ高津区内の各校が情報連携しつつ、良い事例を共有したり、問題解決を相談したりすることが重要と考え、高津区P協では、会長会議・運営委員会での情報交換の時間をこれまで以上に長く確保するようにしています。

できるだけ参加しやすいようにZoomでのオンライン会議の環境も整えました。これも役員や、運営さん達に力を貸して頂いたおかげです！

今後も困難に負けることなく、如何にして変化を受け入れ問題に打ち勝っていくかを考え、みんなで力を合わせて楽しみながら活動を止めることなく高津区P協を発展させていきたいと考えています。

これからもご理解ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

発行者 川崎市PTA連絡協議会
会長 館 勇紀
編集 市P協広報委員会
事務局 川崎市川崎区富士見2-1-3
☎ 044-210-0072
FAX 044-210-0073
市P協HP <http://www.pta-kawasaki.jp/>
印刷所 有限会社 協立印刷社
☎ 044-222-4205
令和3年2月発行